

慶應義塾ミュージアム・コモンズ、 大山エンリコイサムにアート・ワークをコミッション

KeMCo
Keio
Museum
Commons



FFIGURATI #314 大山エンリコイサム (2020) Photo © Katsura Muramatsu (Caloworks)

概要

2021 年春にオープンする慶應義塾のあたらしい大学ミュージアム「慶應義塾ミュージアム・コモンズ」は、施設内の先進的なクリエイション・スタジオ「KeMCo Studl/O (ケムコ・スタジオ)」に、大山エンリコイサム氏によるコミッション・ワーク「FFIGURATI #314」を設置します。

慶應義塾ミュージアム・コモンズ (KeMCo) は、慶應義塾が 160 年を越える歴史の中で形成した、さまざまな領域にわたる文化財コレクション、そしてその背後にある教育・研究活動をつなぐハブとなる機関です。KeMCo は、リアル (アナログ) とデジタルが融け合う展示・教育・研究プログラムを準備することによって、多様なコレクションと活動をつなごうとしています。

この KeMCo の活動を支えるユニークなスタジオが、最新のデジタル撮影・計測機材と、デジタル・ファブリケーション設備を備える「KeMCo Studl/O (ケムコ・スタジオ)」です。このスタジオでは、ミュージアムにおける展示・収蔵の実践と間近に接しながら、デジタル・オブジェクトと実作品の関係を体験を通じて学び、メディア横断的な創造を展開することができます。

慶應義塾の卒業生でもある大山エンリコイサム氏は、ストリート・アートから出発した独自のモチーフ「クイックターン・ストラクチャー」を起点にメディアを横断し表現する美術家です。大山氏の関心と、デジタルとアナログを架橋する KeMCo のコンセプトが重なり合ったことから、ケムコ・スタジオの、ひいては KeMCo のシンボルとなる作品の制作をお引き受けいただきました。

施設の竣工にともない、9 月 25 日から現地での制作が開始されています。大山エンリコイサム氏のアート・ワークは、10 月 26 日からの KeMCo プレビューイベントで公開されます。

お問合せ・最新情報

慶應義塾ミュージアム・コモンズ hello@kemco.keio.ac.jp <https://kemco.keio.ac.jp/>

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 Tel: 03-5427-2021 Fax: 03-5427-2022

関連イベント

イベント詳細については、慶應義塾ミュージアム・commonsのウェブサイト (<https://kemco.keio.ac.jp/>) を参照

大山エンリコイサム トークイベント

2020 年 10 月 28 日 18:30-20:30 Zoom Webinar: <https://bit.ly/3nvfmws>

KeMCo プレビューイベント内でのアート・ワーク公開

2020 年 10 月 26 日 (月) ~10 月 30 日 (金) オンライン開催

慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo)

慶應義塾は、160 年を越える歴史の中で、多様な領域にわたる文化財コレクションを形成してきた。これらのコレクションは、その専門領域に応じて、塾内のさまざまな場所に収蔵され活用されている。慶應義塾ミュージアム・commonsは、慶應義塾のコレクションとその背後にある教育・研究活動を、自律性を保ちながら繋ぐ「ハブ」となる機関だ。アナログとデジタルが融合合う環境を構築し、展覧会、イベント、講義、調査・研究やデジタル・アーカイヴなどを通じて、慶應義塾のアート&カルチャーを社会に開くことを目指している。2021 年春にグランド・オープン予定。活動拠点である慶應義塾大学東別館には、展示室、収蔵庫、クリエイション・スタジオ (KeMCo Studi/O) などを備える。東別館の竣工にともない、10 月 26 日より 1 週間、オンラインを中心にプレビューイベントを開催する。



KeMCo Studi/O (ケムコ・スタジオ)

3D スキャンにも対応した撮影・計測を行うデジタル化機能と、デジタル・データを用いて、3D プリンタなどの工具を駆使して工作を行うファブリケーション機能を兼ね備えたクリエイション・スタジオ。ミュージアムにおける展示・収蔵の実践と間近に接しながら、デジタルとアナログの関係性を体験を通じて学び、メディア横断的な創造を展開することができる。かつてない量のデジタルデータが流通し、デジタル空間にあるオブジェクトの体験がリアルな体験に先行する現代において、デジタルとリアル (アナログ) のオブジェクトの間にどのような関係があるのか、現実のオブジェクトのなにがデジタル化され、なにが抜け落ちるのかを体験しながら考え、学ぶ必要があるという問題意識に基づき設置された。

「FFIGURATI #314」

「FFIGURATI」は「Graffiti」(グラフィティ) とイタリア語の「figura ti」(フィグーラティ: 自身で象れ) を合わせた造語。大山エンリコイサムが一貫して描くモチーフである「クイックターン・ストラクチャー」に対し、「FFIGURATI」は、固有のメディアや技法をもつ個別作品を示し、作品毎に番号が付与されている。KeMCo に設置された#314 では、大山が新たなメディアに挑戦している。

大山エンリコイサム

1983 年東京都生まれ。2007 年慶應義塾大学環境情報学部卒業、09 年東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。エアロゾル・ライティングのヴィジュアルを再解釈したモチーフ「クイックターン・ストラクチャー (QTS)」を起点にメディアを横断する表現を展開し、現代美術の領域で注目される。高校在学中にエアロゾル・ライティングに関心を抱き、70-80 年代のニューヨークを中心とする同文化の影響のもと、線の反復と広がりによる白黒の立体パターンをかきはじめる。その後、同モチーフを「クイックターン・ストラクチャー」と名づけ、現代美術とストリート文化のボーダーで表現を続けている。

主たる個展: 「Kairosphere」(ポーラ美術館、2019)、「VIRAL」(中村キース・ヘリング美術、2019)、「INSIDE OUT」(タワー49 ギャラリー、NYC、2019)、「ユビキタス—大山エンリコイサム」(マリアンナ・キストラー・ピーチ美術館、カンザス、2017) など。著書: 『エアロゾルの意味論 ポストパンデミックの思想と芸術』(青土社、2020)、『ストリートアートの素顔—ニューヨーク・ライティング文化』(青土社、2020)、『ストリートの美術—トゥオンブリからバンクシーまで』(講談社選書メチエ、2020)、『アゲインスト・リテラシー—グラフィティ文化論』(LIXIL 出版、2015)、『美術手帖 2017 年 6 月号 エアロゾル・ライティング特集』(企画・監修) など。コム・デ・ギャルソンやシュウ ウエムラともコラボレーションするなど、多角的に活動している。

ウェブサイト <https://www.enricoisamuoyama.net/>

[Twitter](#) [Instagram](#)

大山エンリコイサム展「夜光雲」

2020 年 12 月 14 日~2021 年 1 月 23 日

神奈川県民ホールギャラリー <https://yakounet.net/>



FFIGURATI #314 大山エンリコイサム (2020) Photo © Katsura Muramatsu (Caloworks)



慶應義塾志木高等学校 壁画 大山エンリコイサム (2003) Photo © Shu Nakagawa